

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月14日
【四半期会計期間】	第121期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	株式会社丸運
【英訳名】	MARUWN CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 桑原 豊
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋小網町7番2号
【電話番号】	03（6810）9451（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員 植西 祐
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋小網町7番2号
【電話番号】	03（6810）9451（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員 植西 祐
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第120期 第2四半期連結 累計期間	第121期 第2四半期連結 累計期間	第120期
会計期間		自2021年4月1日 至2021年9月30日	自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
営業収益	(百万円)	22,766	22,906	46,705
経常利益	(百万円)	350	66	773
親会社株主に帰属する四半期(当期) 純利益	(百万円)	160	67	465
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	187	269	565
純資産額	(百万円)	23,908	24,253	24,122
総資産額	(百万円)	39,273	37,834	39,106
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	5.57	2.32	16.12
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	60.0	63.2	60.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	547	1,459	2,184
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	825	411	1,980
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	745	923	1,511
現金及び現金同等物の四半期末(期 末)残高	(百万円)	1,891	1,865	1,660

回次		第120期 第2四半期連結 会計期間	第121期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自2021年7月1日 至2021年9月30日	自2022年7月1日 至2022年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	1.66	2.50

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の子会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況  
1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間のわが国の経済は、ウクライナ問題、資源価格の高騰や円安などのリスク要因はあるものの、感染拡大の一服を受けた社会経済活動の活性化により、個人消費や企業の設備投資が増加したことから、緩やかに成長しました。

今後については、内需主導のプラス成長を維持するとの見通しが示されている一方、ウクライナ情勢の長期化による食料・エネルギー不安の増大、円安による物価の上昇と消費者心理の悪化、コスト増による企業業績の悪化など、下振れリスクの顕在化が景気回復のブレーキとなる懸念があります。

物流業界においては、コロナ禍による下押し効果が弱まる中、個人消費の増加を受けた消費関連貨物は、堅調に推移しています。しかしながら、生産および建設関連貨物は、半導体など部材類の不足に加え、原材料・燃料の価格高騰の影響を受け、鉱工業生産が低調に推移したことから前年を下回っています。その結果、国内の貨物総輸送数量は、前年を下回る状況で推移しています。

このような経営環境の変化に対応すべく、当社グループは、長期的な企業価値の向上を目指した「2030丸運グループ長期ビジョン」を策定しました。この長期ビジョンの下、既存事業の競争力強化および新規事業領域への展開を推進することによる事業ポートフォリオ変革に取り組んでいきます。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の営業収益は、貨物輸送での国内基幹産業減産に伴う素材物流の減少を海外物流でのEV関連貨物の取扱増が補い、前年同期並みの229億6百万円となりました。

経常損益は、貨物輸送及びエネルギー輸送で基幹システム導入などの経費が増加したことから、前年同期比2億83百万円減の66百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損益は、前年同期比93百万円減の67百万円となりました。

なお、有限会社丸運物流ベトナムは重要性が増したため、今期から連結の範囲に含めております。

セグメント別の業績概況は、次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、会社組織の変更に伴い、貨物輸送セグメントに含まれていた「国際事業」について、海外物流セグメントに含めて表示しております。また、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

#### 《貨物輸送》

当部門においては、運賃改定やサーチャージ導入による増益効果はあったものの、半導体不足を主因とした自動車・家電等の減産に伴うアルミ・銅及び化学品などの素材物流減、流通事業での新規冷蔵保管貨物案件の不調、ペーパーレス化による印刷物の輸送減並びに基幹システム導入に伴う費用増などの影響から減収減益となりました。

これらの結果、営業収益は前年同期比3.4%減の116億47百万円、経常利益は前年同期比3億30百万円減のほぼゼロとなりました。

#### 《エネルギー輸送》

石油部門においては、輸送数量が前年同期比0.2%減少とほぼ横ばいとなりました。

潤滑油・化成品部門においては、製品供給不足の影響等により、主要顧客の輸送数量が前年同期比3.0%減少となりました。

しかしながら、サーチャージ収入増加等の影響により営業収益は微増となり、一方、燃料代・基幹システム導入などの経費が増加となりました。

これらの結果、営業収益は前年同期並みの71億72百万円、経常損益は前年同期比55百万円減の1億13百万円の損失となりました。

#### 《海外物流》

当部門においては、ベトナム現地法人の連結化に加えて、高級EV関連のアルミ製品取扱数量の増加による取引拡大はあったものの、半導体不足や春先の上海ロックダウンの影響による自社稼働減が利益減要因となりました。

これらの結果、営業収益は前年同期比20.6%増の31億78百万円、経常利益は前年同期比2百万円減の36百万円となりました。

#### 《テクノサポート》

当部門においては、油槽所関連では受託業務の一部終了に伴い減収、製油所関連では前年度上期に定期修理工事関連の受注がありましたが、今年度上期は定期修理工事自体がないため減収となったものの、関係会社での退職金制度変更に伴う引当金の戻しが発生したことを主因とし、全体としては減収増益となりました。

これらの結果、営業収益は前年同期比4.9%減の8億92百万円、経常利益は前年同期比40百万円増の68百万円となりました。

### (2) 財政状態の状況

#### 《資産》

当第2四半期連結会計期間末における総資産は378億34百万円となり、前期末に比べ12億71百万円減少しました。この主な要因は、現金及び預金の増加2億38百万円、季節差等による営業未収入金及び契約資産の減少7億200百万円並びに償却等による有形固定資産及び無形固定資産の減少7億73百万円等によるものであります。

#### 《負債》

当第2四半期連結会計期間末における負債は135億80百万円となり、前期末に比べ14億300百万円減少しました。この主な要因は、季節差等による営業未払金の減少3億81百万円、返済による借入金の減少7億93百万円及び未払金の減少1億29百万円等によるものであります。

#### 《純資産》

当第2四半期連結会計期間末における純資産は242億53百万円となり、前期末に比べ1億31百万円増加しました。この主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益を67百万円計上したことによる増加、配当金の支払による減少1億150百万円、その他有価証券評価差額金の増加1億16百万円及び為替換算調整勘定の増加73百万円等によるものであります。この結果、自己資本比率は前期末の60.8%から63.2%となりました。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ2億400百万円増加し、18億65百万円となりました。

営業活動の結果得られた資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ9億1100百万円増加し、14億5900百万円となりました。この主な要因は、仕入債務の減少及び法人税の支払いが減少したことによるものであります。

投資活動の結果使用した資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ4億1400百万円減少し、4億1100百万円となりました。この主な要因は、固定資産の取得による支出が減少したことによるものであります。

財務活動の結果使用した資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ1億7700百万円増加し、9億2300百万円となりました。この主な要因は、短期借入金の減少及び長期借入金の返済が増加したものであることによるものであります。

### (4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

### (5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、労務費、燃油の購入費用、車両の維持保全費用、倉庫賃借料並びに販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、主に車両購入及び倉庫建設等の設備投資によるものであります。当社グループは事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、設備投資や長期運転資金の調達につきましては、自己資金や金融機関からの長期借入を基本としております。また、グループの資金効率化を図るため、キャッシュ・マネジメント・システム(CMS)を導入しております。

なお、当第2四半期連結累計期間末における有利子負債(借入金)の残高は36億4200百万円であり、現金及び現金同等物の残高は18億6500百万円となっております。

2023年3月期の設備投資額については、19億2900百万円を計画しておりますが、現在の自己資本比率は63.2%と厚みを増しており、その資金の調達にあたっては問題がないと考えております。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	56,000,000
計	56,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (2022年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,965,449	28,965,449	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数100株
計	28,965,449	28,965,449	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日	-	28,965,449	-	3,559	-	3,076

(5)【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
E N E O Sホールディングス株式 会社	千代田区大手町1丁目1-2	11,041	38.22
株式会社佐藤企業	新潟市中央区東堀前通1番町345番地	5,163	17.87
佐藤 謙一	新潟市中央区	1,562	5.40
丸運グループ従業員持株会	中央区日本橋小網町7-2	799	2.76
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	港区浜松町2丁目11番3号	792	2.74
大樹生命株式会社 (常任代理人株式会社日本カスト ディ銀行)	千代田区大手町2丁目1-1 (中央区晴海1丁目8-12)	400	1.38
J . P . M O R G A N S E C U R I T I E S P L C (常任代理人JPモルガン証券株式 会社)	25 BANK STREET CANARY WHARF LONDON UK (千代田区丸の内2丁目7番3号)	282	0.97
M S I P C L I E N T S E C U R I T I E S (常任代理人モルガン・スタンレー M U F G証券株式会社)	25 CABOT SQUARE, CANA RY WHARF, LONDON E14 4QA, U.K. (千代田区大手町1丁目9-7)	254	0.88
株式会社みずほ銀行 (常任代理人株式会社日本カスト ディ銀行)	千代田区大手町1丁目5番5号 (中央区晴海1丁目8番12号)	249	0.86
株式会社三井住友銀行	千代田区丸の内1丁目1-2	240	0.83
計	-	20,785	71.95



(6) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 79,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,854,600	288,546	-
単元未満株式	普通株式 31,449	-	-
発行済株式総数	28,965,449	-	-
総株主の議決権	-	288,546	-

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社丸運	東京都中央区日本橋小網町7番2号	79,400	-	79,400	0.27
計	-	79,400	-	79,400	0.27

(注) 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権の数10個)あります。

なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の中に含まれております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、清陽監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,837	2,075
受取手形	235	381
電子記録債権	315	305
営業未収入金及び契約資産	5,924	5,195
棚卸資産	49	68
その他	1,444	1,237
貸倒引当金	1	0
流動資産合計	9,805	9,261
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,744	4,579
機械装置及び運搬具(純額)	2,900	2,474
土地	16,855	16,849
その他(純額)	341	349
有形固定資産合計	24,842	24,253
無形固定資産		
ソフトウェア	1,453	1,269
その他	88	88
無形固定資産合計	1,542	1,358
投資その他の資産		
投資有価証券	2,079	2,130
繰延税金資産	220	206
その他	738	745
貸倒引当金	123	121
投資その他の資産合計	2,915	2,961
固定資産合計	29,300	28,572
資産合計	39,106	37,834
負債の部		
流動負債		
営業未払金	2,809	2,428
短期借入金	2,521	2,151
未払法人税等	117	93
賞与引当金	659	636
その他	2,380	2,208
流動負債合計	8,489	7,518
固定負債		
長期借入金	1,914	1,491
再評価に係る繰延税金負債	1,888	1,888
退職給付に係る負債	2,341	2,319
役員退職慰労引当金	35	45
資産除去債務	17	18
その他	296	298
固定負債合計	6,494	6,061
負債合計	14,983	13,580

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,559	3,559
資本剰余金	3,058	3,058
利益剰余金	13,637	13,566
自己株式	22	22
株主資本合計	20,233	20,162
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	651	768
土地再評価差額金	2,905	2,905
為替換算調整勘定	52	125
退職給付に係る調整累計額	64	53
その他の包括利益累計額合計	3,544	3,746
非支配株主持分	344	345
純資産合計	24,122	24,253
負債純資産合計	39,106	37,834

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)
営業収益	22,766	22,906
営業原価	20,929	21,400
営業総利益	1,836	1,506
販売費及び一般管理費	1,543	1,524
営業利益又は営業損失 ( )	293	18
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	37	40
スクラップ売却益	1	25
その他	31	31
営業外収益合計	74	99
営業外費用		
支払利息	12	11
その他	5	3
営業外費用合計	17	14
経常利益	350	66
特別利益		
固定資産売却益	39	27
投資有価証券売却益	20	4
その他	1	1
特別利益合計	61	33
特別損失		
固定資産除売却損	1	0
減損損失	59	1
その他	8	0
特別損失合計	69	1
税金等調整前四半期純利益	342	98
法人税、住民税及び事業税	203	67
法人税等調整額	13	32
法人税等合計	189	34
四半期純利益	152	64
非支配株主に帰属する四半期純損失 ( )	8	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	160	67

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	152	64
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	43	116
土地再評価差額金	46	-
為替換算調整勘定	21	77
退職給付に係る調整額	10	11
その他の包括利益合計	35	205
四半期包括利益	187	269
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	194	268
非支配株主に係る四半期包括利益	6	0

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	342	98
減価償却費	1,134	1,242
減損損失	59	1
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	70	10
賞与引当金の増減額(は減少)	16	30
売上債権の増減額(は増加)	809	660
仕入債務の増減額(は減少)	957	411
その他	475	341
小計	967	1,210
利息及び配当金の受取額	40	43
利息の支払額	14	11
法人税等の支払額	480	85
法人税等の還付額	33	301
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>547</b>	<b>1,459</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の取得による支出	883	438
有形及び無形固定資産の売却による収入	41	40
投資有価証券の取得による支出	1	1
投資有価証券の売却による収入	21	13
その他の支出	70	218
その他の収入	66	193
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>825</b>	<b>411</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	100
長期借入金の返済による支出	640	693
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	116	115
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	25	-
その他の支出	13	13
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>745</b>	<b>923</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	43
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,011	167
現金及び現金同等物の期首残高	2,902	1,660
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	37
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,891	1,865

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、有限会社丸運物流ベトナムは重要性が増したため、連結の範囲に含めておりません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(四半期連結貸借対照表関係)

棚卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
商品及び製品	1百万円	1百万円
原材料及び貯蔵品	47	66

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
給料手当	905百万円	910百万円
賞与引当金繰入額	127	120
退職給付費用	26	27
役員退職慰労引当金繰入額	7	10
貸倒引当金繰入額	0	0
減価償却費	104	26

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金勘定	1,930百万円	2,075百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	39	210
現金及び現金同等物	1,891	1,865



(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月21日 取締役会	普通株式	115	4.0	2021年3月31日	2021年6月7日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月4日 取締役会	普通株式	115	4.0	2021年9月30日	2021年12月6日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月20日 取締役会	普通株式	115	4.0	2022年3月31日	2022年6月6日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月9日 取締役会	普通株式	115	4.0	2022年9月30日	2022年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

(単位:百万円)

	貨物輸送	エネルギー輸送	海外物流	テクノサポート	その他事業	合計	調整額(注1)	四半期連結損益計算書計上額(注2)
営業収益								
顧客との契約から生じる収益	12,059	7,116	2,635	938	16	22,766	-	22,766
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への営業収益	12,059	7,116	2,635	938	16	22,766	-	22,766
セグメント間の内部営業収益又は振替高	473	349	0	0	213	1,037	1,037	-
計	12,532	7,466	2,635	939	230	23,803	1,037	22,766
セグメント利益又は損失( )	330	58	39	28	15	354	4	350

(注)1.セグメント利益又は損失( )の調整額4百万円は、各報告セグメントに配分していない全社収益・費用の純額等であります。

2.セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

(単位:百万円)

	貨物輸送	エネルギー輸送	海外物流	テクノサポート	その他事業	合計	調整額(注1)	四半期連結損益計算書計上額(注2)
営業収益								
顧客との契約から生じる収益	11,647	7,172	3,178	892	14	22,906	-	22,906
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への営業収益	11,647	7,172	3,178	892	14	22,906	-	22,906
セグメント間の内部営業収益又は振替高	469	351	3	0	208	1,033	1,033	-
計	12,117	7,523	3,182	893	223	23,940	1,033	22,906
セグメント利益又は損失( )	0	113	36	68	27	19	46	66

(注)1.セグメント利益又は損失( )の調整額46百万円は、各報告セグメントに配分していない全社収益・費用の純額等であります。

2.セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、会社組織の変更に伴い、貨物輸送セグメントに含まれていた「国際事業」について、海外物流セグメントに含めて表示しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

前第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

「その他事業」において、事業の用に供していない遊休資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては59百万円であります。

（単位：百万円）

	貨物輸送	エネルギー輸送	海外物流	テクノサポート	その他事業	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
減損損失	-	-	-	-	59	59	-	59

当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

「その他事業」において、事業の用に供していない遊休資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては1百万円であります。

（単位：百万円）

	貨物輸送	エネルギー輸送	海外物流	テクノサポート	その他事業	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
減損損失	-	-	-	-	1	1	-	1

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであり  
ます。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり四半期純利益	5円57銭	2円32銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	160	67
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益 (百万円)	160	67
普通株式の期中平均株式数(千株)	28,886	28,886

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

2022年11月9日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 中間配当による配当金の総額 115百万円
- (ロ) 1株当たりの金額 4円00銭
- (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 2022年12月5日

(注) 2022年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月9日

株式会社丸運  
取締役会 御中

清陽監査法人  
東京都港区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 大河原 恵史

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 石井 和人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 乙藤 貴弘

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社丸運の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社丸運及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。